

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人
清瀬市社会福祉協議会

目 次

はじめに	1
1. 組織運営	2
2. 地域福祉事業	10
3. 第1層生活支援コーディネーター業務	15
4. 助成事業	17
5. 生活福祉資金貸付事業	19
6. ボランティア・市民活動センター事業	20
7. 共同募金	25
8. 地域包括支援センター事業	27
9. 権利擁護センター事業	31
10. 障害者福祉センター事業	37

令和2年度 社会福祉法人清瀬市社会福祉協議会事業報告

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、制限される取り組みや感染リスクと直面しながらのサービス提供など、厳しい事業運営を強いられました。その一方で、コロナ禍だからこそその新しい取り組みにも積極的に取り組んできました。

令和2年3月から始まった生活福祉資金特例貸付は、新型コロナウイルス感染症の影響により減収・失業等の状況になった世帯に対応し、生活福祉資金貸付事業全体での相談件数は前年比で1.5倍以上にも上りました。生活に困窮する世帯が増加する中、7月にはフードバンクきよせも開設したところです。

障害者福祉センターでは、臨時休館や利用自粛要請などの措置をとったり、支援プログラムや介護の見直しが迫られるなど、状況の変化に応じた運営を迫られました。そうした中でも利用者の安全と福祉の向上を第一に取り組み、1日当たりの利用者数は回復しつつあるところです。

ボランティア・市民活動、地域づくりの取り組みが制限される中、生活支援コーディネーターが中心となって取り組んだ「あったかマスクプロジェクト」では、外出自粛下の状況で多くの市民が参加し、マスク不足とコロナ不安が続く中、大きな力となりました。また、停滞する地域活動の一助となるよう「地域活動再開に向けたハンドブック」を作成したほか、市民活動団体向けにオンライン会議ツールの体験・相談会を継続的に実施し、新たな一歩のきっかけづくりの取り組みを進めました。

高齢者や障害者への相談支援においては、直接的な対応が制限され、フレイル、介護度の上昇、虐待リスクへの懸念や、困難な状況になってからの対応が増えるとともに、成年後見制度の利用は大幅に増えました。他方、高齢者の介護予防への取り組みとしては、新たに作成したエンディングノートを活用し、少人数講座の継続実施や、コミュニケーションツールの活用を促すため、LINE講座を実施しました。

法人運営としては、市民との接触が減り会員増強などの財源確保が困難となる一方、人員の弾力的運用、テレワーク環境の整備や弾力的な労務管理を行いながら、法人全体で困難な状況に対処してきたところです。

以下、各事業の実施状況の詳細について報告します

1. 組織運営

1
組織運営

法人運営

法人運営に必要な理事会、評議員会を実施するとともに、適正な運営が図られるよう第三者的なチェック機能をもつ場を設けた。

(1)理事会

日程	内 容
①6月1日	令和元年度事業報告 収入支出決算 経理規程の一部改正 資金収支補正予算 令和2年度第1回評議員会
②8月20日	清瀬市障害者福祉センター指定管理
③10月9日	テレワーク就業規則 令和2年度資金収支補正予算 令和2年度第2回評議員会
④12月14日	評議員選任・解任委員会委員の選任
⑤1月18日	令和3年度事業計画の骨子 就業規則の一部改正 嘱託職員就業規則の一部改正 臨時職員就業規則の一部改正 令和2年度資金収支補正予算 令和2年度第3回評議員会の開催
⑥3月10日	定款の一部変更 事務規程の一部改正 経理規程の一部改正 資産運用規程の一部改正 情報セキュリティ規程の制定 育児・介護休業等に関する規程の一部改正 令和3年度清瀬市社会福祉協議会表彰者 令和2年度資金収支補正予算 令和3年度事業計画 令和3年度予算 評議員選任・解任委員会 令和2年度第4回評議員会

(2)評議員会

日程	内 容
①6月22日	令和元年度事業報告 収入支出決算 経理規程の一部改正 資金収支補正予算
②10月23日	テレワーク就業規則 令和2年度資金収支補正予算
③2月5日	就業規則の一部改正 嘱託職員就業規則の一部改正 臨時職員就業規則の一部改正 令和2年度資金収支補正予算 社会福祉法人清瀬市社会福祉協議会役員選任
④3月29日	定款の一部変更について 事務規程の一部改正について 経理規程の一部改正について 資産運用規程の一部改正について 情報セキュリティ規程の制定について 育児・介護休業等に関する規程の一部改正について 令和3年度清瀬市社会福祉協議会表彰者について 令和2年度資金収支補正予算について 令和3年度事業計画について 令和3年度予算について

(3)監査

日程	内 容
①5月21日	令和元年度決算監査

(4)会計検査

日程	内 容
①11月9日	令和2年度上半期内部経理検査・会計理事検査

(5)苦情解決第三者委員会

日程	内 容
①12月7日	センター事業利用に関するアンケート、苦情・要望等への対応状況

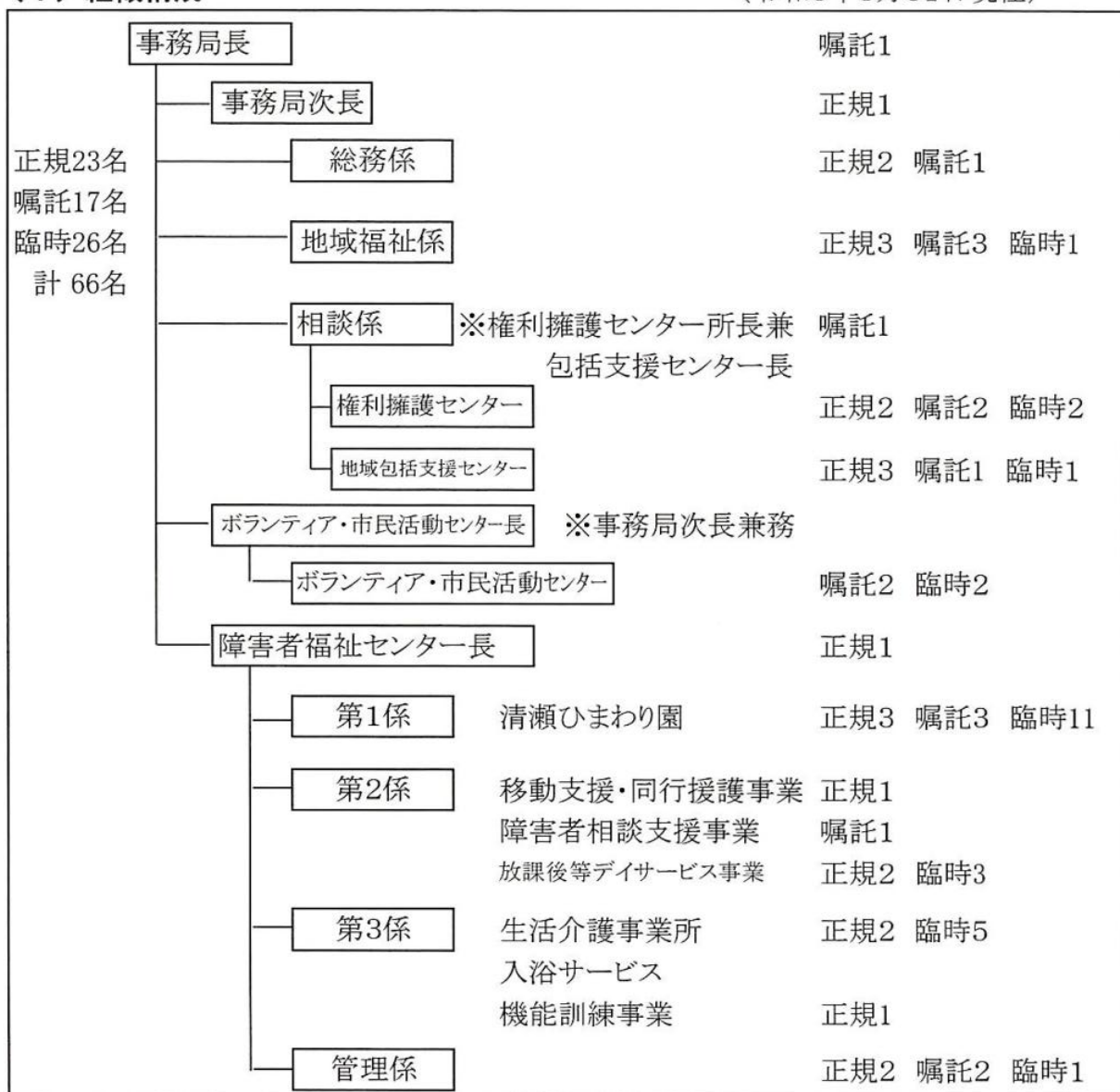
(6)実地調査

日程	内 容
①9月17日	労働時間に関する調査 三鷹労働基準監督署
②12月8日	健康保険及び厚生年金保険被保険者の資格及び報酬等の調査 武蔵野年金事務所

職員構成

(1) 組織構成

(令和3年3月31日現在)

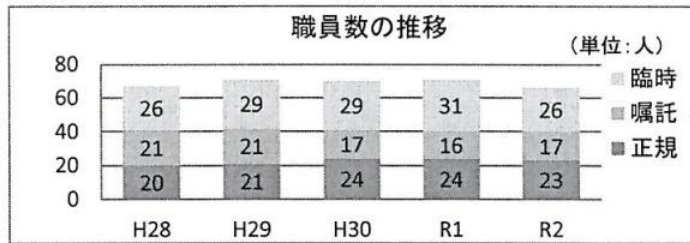
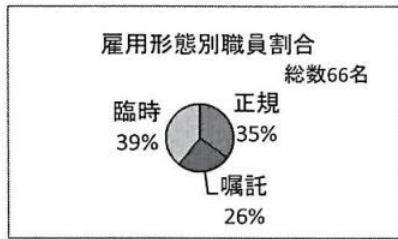


(2) 職員数

(令和3年3月31日現在 ()内は去年の人数)

区分	正規職員	嘱託職員	臨時職員	合計
社協事務局	11 (11)	※ 11 (10)	6 (6)	28 (27)
事務局	6 (6)	4 (3)	1 (1)	11 (10)
ボランティア・市民活動センター	0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)
権利擁護センター	2 (2)	2 (2)	2 (2)	6 (6)
地域包括支援センター	3 (3)	※ 2 (2)	1 (1)	6 (6)
障害者福祉センター	※ 12 (12)	6 (7)	20 (24)	38 (43)
第1係	3 (6)	3 (3)	11 (18)	17 (27)
第2係	3 (3)	1 (2)	3 (5)	7 (10)
第3係	3	0	5	8 (0)
管理係	2 (2)	2 (2)	1 (1)	5 (5)
合 計	23 (23)	17 (16)	26 (31)	66 (70)

※事務局長、障害者福祉センター長分は小計で加算、権利擁護センター兼地域包括支援センター長は地域包括支援センターにて計上



- ・令和2年4月1日 臨時職員1名採用(障害者福祉センター第2係)
- ・令和2年4月9日 嘱託職員1名採用(地域福祉係)
- ・令和2年9月16日 臨時職員1名退職(障害者福祉センター第3係)
- ・令和3年1月31日 臨時職員1名退職(障害者福祉センター第3係)
- ・令和3年3月25日 臨時職員1名採用(障害者福祉センター第2係)
- ・令和3年3月31日 正規職員1名退職(障害者福祉センター第3係)
- ・令和3年3月31日 嘱託職員1名退職(地域福祉係)
- ・令和3年3月31日 臨時職員4名退職(障害者福祉センター第2係:2名 第3係2名)

職員研修

多様なニーズに応えられる人材育成を図るため、意識の向上、職場内の課題解決能力を養う専門的知識の取得と処遇技術の向上を目的に職員研修の充実に努めた。

(1)外部研修への参加

	R2年度	R元年度
法人、組織管理等	5回	15回
地域福祉事業	20回	18回
ボランティア・市民活動センター事業	16回	9回
権利擁護センター事業	7回	30回
地域包括支援センター事業	3回	17回
生活福祉資金貸付事業	1回	3回
障害者福祉センター事業	2回	50回

(2)内部研修の実施

- ①新規採用職員研修
- ②業務内容研修 (職員の資質向上、窓口等のサービス向上を図る)

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、感染拡大防止と職員とその家族の福祉の向上を図るため、必要な対応と仕組みをつくる。

- ①交代制勤務の実施
- ②テレワーク環境の整備と運用開始(事業継続緊急対策助成金活用)
- ③感染拡大防止に係る職務専念義務免除の拡充
- ④小学校等の休業に係る特別休暇の付与 (対象助成金活用)
- ⑤時差通勤制度の運用
- ⑥障害福祉・介護慰労金の支給 (都助成金活用)

会員増強

会員増強月間を7月から4月に改め、分かりやすくするとともに、車いす貸出しや地域事業などの場で呼びかけや理解を求めた。

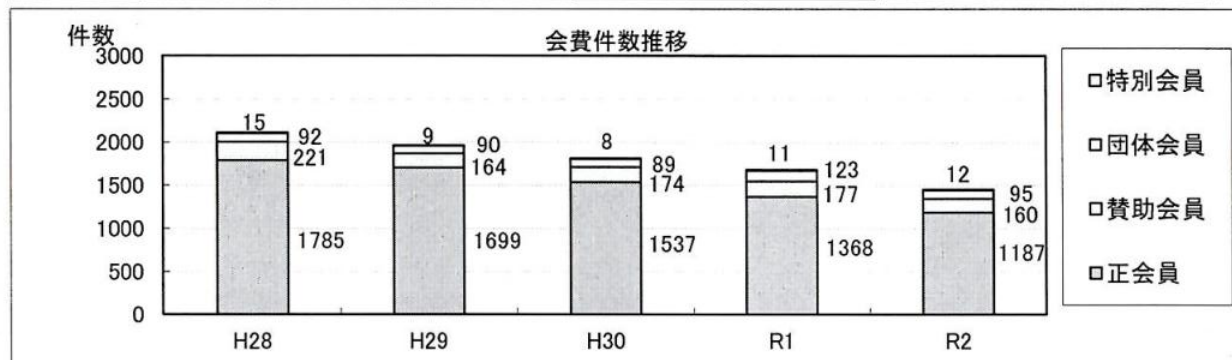
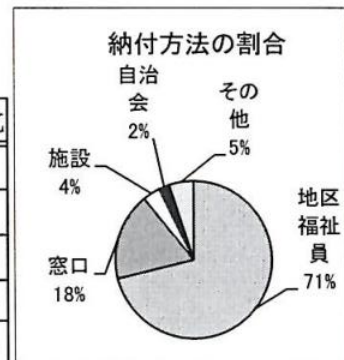
(1) 会員増強運動 4月1日～4月30日

- ① 地区福祉員を介し市民に呼びかけ
- ② 単年度加入の方に対し、郵便振込みでの会費納入の呼びかけ
- ③ 各団体・社会福祉施設等への加入の呼びかけ
- ④ 会員向け情報誌「社協かわらばん」(年2回)を作成し、全会員へ配布

(2) 会費の納入状況

地区福祉員(76名)による納付方法が主となっている

種類	件数(件)	口数(口)	金額(円)	前年度(円)	前年度比
正会員	1,187	1,630	815,000	882,000	92.4%
賛助会員	160	176	176,000	203,000	86.7%
団体会員	95	107	321,000	441,000	72.8%
特別会員	12	12	120,000	110,000	109.1%
合計	1,454	1,925	1,432,000	1,636,000	87.5%



(3) 地区福祉員連絡会

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催中止
- 各地区における地区連絡会 実施なし

(4) 会員向けサービス実施

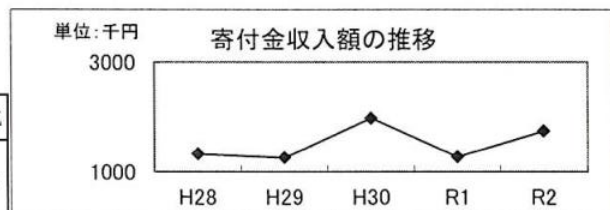
- 車椅子貸出
- 備品貸出し
- ふれんどサービス
- 会員向け情報誌の発行

財源確保

寄付金、募金箱の設置や各種事業収入を自主財源として確保し、安定した法人運営を図るため、多様な形で財源確保に努めた。

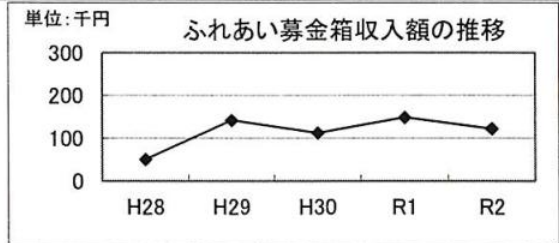
(1) 寄付金

寄付金	令和元年度	令和2年度	前年比
件数	39件	66件	137%
金額	1,272,751 円	1,742,301 円	



(2)ふれあい募金箱

- ①設置場所 市内20か所に常設
 平成28年度より設置場所増設(13→21か所)
 令和2年度より1か所撤去(20か所)
 令和2年度下半期、未集金



②募金額

	令和元年度	令和2年度	前年比
金額	148,773 円	122,227 円	82%

(3)入れ歯リサイクル事業

地域から寄せられた入れ歯をNPO法人日本入れ歯リサイクル協会が資源化し、その収益金の一部を寄付受領。

- ①設置場所 市内10か所に常設

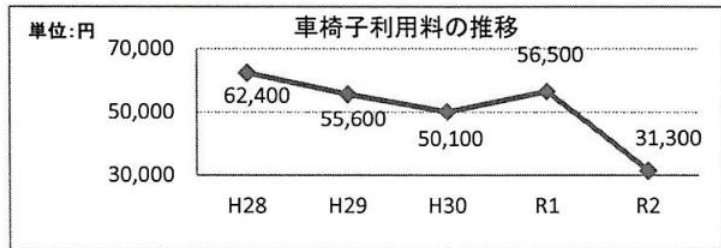
②寄付額

	令和元年度	令和2年度
金額	0 円	0 円

(4)応益負担

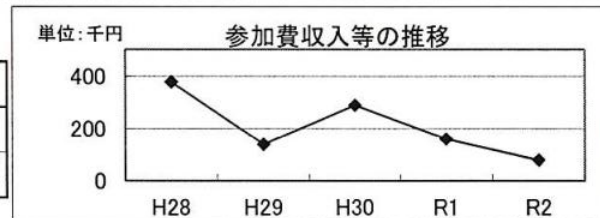
①車椅子貸出事業利用料収入

- ◇1ヶ月ごとに500円
(会員は1ヶ月まで無料)
- ◇配達は往復の場合500円
片道のみの場合300円



②講座等参加費収入

講習名	参加費
手話ボランティア養成講座	62,700 円
音訳ボランティア養成講座	16,000 円

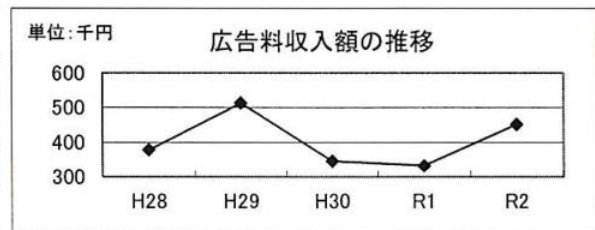


(5)社協だより広告料

法人機関紙(社協だより)に広告枠を設置し、社協会員及び市内の企業や事業者等を中心に、広告主として申請、決定されたものを掲載。
 令和2年度より広告掲載業務の一部を委託。

○ 広告料収入

	令和元年度	令和2年度	前年比
件数(延べ)	22件	22件	99%
金額	332,000 円	330,000 円	
委託料	0円	121,000 円	-
合計金額	332,000 円	451,000 円	136%



(6)バザー・地域イベント

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でバザー・地域イベントは中止。12月からボランティア・市民活動センター内で市民から寄付いただいた手作り品を「ぼらかつショップ」として販売開始する。

○ぼらかつショップ販売額 28,665円

(7)収益事業(自動販売機の設置)

自動販売機を障害者福祉センターに1台、コミュニティプラザに3台、市民活動センターに1台設置。収益は法人全体で管理し、その管理手数料を自主財源として扱う。

①手数料収入 493,542円 (前年度 601,994円 前年比 82%)

(8)実習生等の受入れ

地域の福祉人材育成のため、実習及び見学生生の受け入れ。
令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部受入を見合わせ。

謝金 128,500円(前年度 300,100円)

* 社会福祉士養成課程 日本社会事業大学:7名 十文字学園女子大学:2名

* 在宅看護学実習 国立看護大学校:3人

広報宣伝

(1)社協だよりの発行

①発行状況 年6回発行 (1回27,000部)

号数	発行日	内 容
218号	4月15日	社協会員加入募集、令和2年度事業計画、予算他
219号	7月1日	きよせあったかマスク☆プロジェクト、令和元年度決算、事業報告他
220号	9月1日	赤い羽根共同募金、きよせボランティア・市民活動センター紹介他
221号	11月1日	きよせ権利擁護センター紹介、市民表彰、助成金情報、共同募金他
222号	1月1日	年頭挨拶、きよせ社協地域包括支援センター紹介、赤い羽根報告、他
223号	3月1日	障害者福祉センター紹介、共同募金お礼と報告、フードバンクきよせ他

- ②配布先等 ○ 新聞折込、市内公共施設、市内自治会へ郵送。
○ 自治会から枚数増の要望もあり、広く市民へ社協だよりが届くよう努めた。
- ③編集委員会 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、会の実施は中止。
上・下半期の2回、編集委員へアンケートを実施し、紙面内容等を検討。

(2)ホームページによる情報提供

○ リアルタイムな情報提供を目指し、職員全体で更新していく。

更新作業 130回 (前年166回)

- ◇地域情報 17回 ◇助成金情報 3回 ◇講座・イベント案内 2回
- ◇職員募集 4回 ◇事業報告等 4回 ◇ボランティア・市民活動情報 39回
- ◇共同募金 3回 ◇災害関連 0回 ◇社協からのお知らせ 36回
- ◇障害者福祉センター情報 22回

(3)フェイスブックページ

◇更新73回(前年44回)

(4)地域イベントを通じたPR活動

地域で開催される催しに参加・実施協力を行い、社会福祉協議会の広報を行う。
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域イベントが中止。

表彰

地域福祉の推進に貢献をいただいた方に対して表彰及び表彰推薦を行った（敬称略）。

（１）高額寄付者表彰

例年、寄付金、共同募金等で10万円以上の寄付者、物品で10万円相当以上の寄贈者に対し表彰。また、社協事業に多大なご協力をいただいた方に対しても表彰しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止。表彰は個別対応とした。

- 一般寄付者 (株)ホームケアセンターイワサキ、ボランティア手芸グループ、
4(名・団体) 鈴木 喜久代、萩倉 孝子
- 歳末たすけあい 1団体 清瀬市理事者・部課長会
- 事業協力者 2(名・団体) 旭が丘地区地区福祉員、木村 智

（２）市民表彰

- ①特別表彰:森原弘成 土金百合子
- ②理事功績:内山勇
- ③ボランティア団体
きよせお話し相手・傾聴の会 清瀬紙芝居サークルひだまり 絵手紙の会マーガレット

後援名義使用承認

他団体が実施する地域福祉推進に有益な事業に対し、後援名義の使用を承認する。

団体名	内 容
清瀬・東久留米ホスピス緩和ケア週間実行委員会	清瀬・東久留米ホスピス緩和ケア週間2020
弁護士法人 多摩パブリック法律事務所	無料法律相談会

人材育成・研修協力

（１）実習生の受け入れ

社会福祉士を目指す方の現場実習を受け入れ、その養成を図る。

- ・日本社会事業大学7名
- ・十文字学園女子大学2名

（２）社会福祉協議会事業視察・学習受け入れ

地域の関係者に、社会福祉協議会の理解を図る場を作る。

- ①清瀬市社会福祉士現場実習生 9月11日 1名
- ②清瀬喜望園社会福祉士現場実習生 10月1日 1名

（３）大学授業での講義

- ①日本社会事業大学 11月10日「相談援助演習Ⅱ」

広域ネットワーク

（１）取り組み協力

東京都が中心に進める会議や他地域で実践報告を行う。

- ①東京都地域公益推進ネットワーク社協情報交換会 実践発表 9月18日
- ②北北ブロック社協 地域づくりに関わるコーディネーター情報交換会 実践発表 2月17日

（２）情報共有・連携に関する会議参加

社会福祉協議会全体の取り組みを推進するため、情報共有・連携を図る会議に参加。

- ・東京都社会福祉協議会 会長・役員・事務局長研究協議会 10月15日

<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村社会福祉協議会事務局長会 4月28日 7月7日 10月30日 1月28日 ・東京都社会福祉協議会地域福祉計画・地域福祉活動計画情報交換会 1月20日 	1
地域連絡	
<p style="text-align: center;">関係機関が主催する会議等に参加し、地域の実情把握と情報共有等に努めた。</p> <p>①清瀬市主催会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉推進協議会 10月6日 ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会 7月22日 11月24日 1月27日 ・清瀬市要保護児童対策地域協議会 10月22日 ・男女共同参画センター ソーシャルネットワーククラブ 7月15日 8月27日 9月25日 <p>②地域団体の主催会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人ウィズアイ事業報告会 7月18日 ・十文字学園女子大学実習報告会 12月12日 	

2. 地域福祉事業

2 地域福祉事業	地域福祉活動計画の推進			
	(1) 第3次清瀬市民地域福祉活動計画推進委員会			
	第3次清瀬市民地域福祉活動計画の進捗状況について、評価・点検を行い、着実な計画推進を図るための委員会。新型コロナウイルスの影響により委員会開催を延期したため、令和2年度は開催なし。			
	地域の繋がりづくり			
	(1) 福祉のまちづくり懇談会			
	身近な地域でつながりあい、福祉課題を共有しあい、課題解決に向けた取り組みを進めていくために、清瀬市企画課と共催による地域づくりの会を開催。			
	エリア	開催回数	延べ参加	内容
	十小地域	10回 (発送回数)	700 (発送数)	円卓会議を進める清瀬市企画課と共催。平成28年6月より毎月話し合いを重ね、令和元年5月住民組織立上げ。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により会議開催は休止したが、参加者に毎月お便り発送を行った。
	清明小地域	1回 (発送回数)	66(発送数)	円卓会議を進める清瀬市企画課と共催。平成30年9月住民組織を立上げ。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、会議開催は休止したが、役員会開催1回、参加者にお便りと布マスク発送を行った。
	四小地域	なし	0	円卓会議を進める清瀬市企画課と共催。四小エリアでは円卓会議を開催してきたが、地域づくりの会として令和元年6月よりリスタート。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により会議開催等休止。
(2) 円卓・地域づくりの会リーダー情報交換会				
横のつながりづくりと、新型コロナウイルス感染症の影響により中断した円卓・地域づくりの会の再開支援を目的に、清瀬市企画課と共催で開催。 ○11月28日(水) 8地区12名				
(3) 清瀬市社会福祉福祉法人社会貢献事業協議会				
種別の垣根を超えた社会福祉法人が、地域の課題を共有し、ネットワークの輪を広げるとともに、地域における公益的な取り組み等を行うことを目指し、連携事業を実施。4法人の代表者を中心に、全体会議、部会を設けて、運営を行っている。				
【代表者会】				
①7月15日 ②8月26日 ③11月25日 ④2月10日				
I. 運営会議の進め方 II. 情報共有他				
【運営会議】				
実施日	会場	主な内容		
8月13日	書面	①前年度事業報告・決算報告		
10月21日	コミュニティプラザ、オンライン併用	①現状共有 ②事業報告 ③令和2年度の進め方 ④部会 他		
2月24日	書面	①現状共有 ②事業報告 ③次年度事業計画案 ④代表者の任期 他		

【広域連携・事業協力】

- ①「Kiyoseあったかマスク☆プロジェクト」への資金協力:9事業所
- ②2月5日 東京都地域公益活動推進協議会 区市町村ネットワーク代表者連絡会

(4) 子ども家庭支援関係者・団体連絡会

子どもや子育て家庭支援に関わる関係者が、取り組みや課題を共有し支援者間のネットワークづくりを行っていくために実施。令和2年度は中止。

(5) サロン活動団体連絡会

サロン活動を行う団体同士が、それぞれの取り組みや課題を共有し、活動につなげていくことを目指して実施する。令和2年度は中止。

(6) 地域活動再開ハンドブックの作成・配布

新型コロナウイルス感染症の影響により中断した地域活動の再開支援を目的にハンドブックを作成。サロン団体連絡会に参加団体にヒアリングを行い、必要な情報を掲載した。サロン団体や円卓・地域づくりの会に配布した他、ホームページにも掲載した。

○作成部数 250部

地域福祉情報の提供・啓発

(1) サロンマップの発行・配布

清瀬市内のサロン等地域の交流場所の情報を一元的に収集・整理する取組み。日本社会事業大学生の協力を得て取材を行い、清瀬市と共同で改訂版を発行した。関係機関や公共施設を通じ、配布を行う。

○2020～2021年版 発行部数 3000部

(2) 「もしも」のときの安心ノートの発行・配付

(株)ホープとの協働により、エンディングノートを発行。これからの人生を考えていただくきっかけづくりとして、公共施設や高齢者支援機関などを通じて配付。1,400部発行。

(3) きよせふれあいまつり

社会福祉や地域の様々な活動への理解を深め、交流しあう場として、バザーやコンサートなどを実施する催し。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。

地域活動への支援

(1) 地域活動への支援と協議等の場への参加

種別	団体数	協議等	備考
新しい活動の立ち上げ相談	2	4	子ども食堂等
既存グループへの支援	46	60	サロン、子ども食堂、中学校、他
円卓会議	2	3	六小、七小

(2) 地域活動団体等主催事業への協力・参加

地域活動団体が行う取り組みに対して、事業協力・参加を行う。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどのイベント等が中止。

- ① 子ども食堂連絡会 7月9日 11月12日 3月26日
おひさまネットワークが呼びかけ、市内子ども食堂を運営する団体の連絡会に参加。

② 子どもの居場所支援者養成講座 8月2日 8月8日 8月22日 8月23日 8月29日
子ども食堂団体等の有志による養成講座の当日運営に協力

新たなニーズへの取り組み

(1) 相談支援

初回相談	51件（前年度17件）	
	・近所トラブル ・引きこもり親からの相談 ・外国人の生活相談 ・若者の生活相談 ・DV、虐待 ・障害者の社会参加相談 ・生活困窮相談 ・病気や障害による不安 ・被災者の生活相談 ・高齢者の居場所相談 ・路上生活者からの相談 ・障害者親の生活相談 ・介護疲れの相談 ・居所の相談	
相談支援件数	直接支援	91件(前年度54件)
	間接支援	98件(前年度115件)

電話訪問事業

ひとり暮らし高齢者に対し、日常生活の安全確保と孤独感の解消を図ることを目的に実施する。

(1) 利用登録

19名（前年度末 17名）
（新規5名、終了3名）

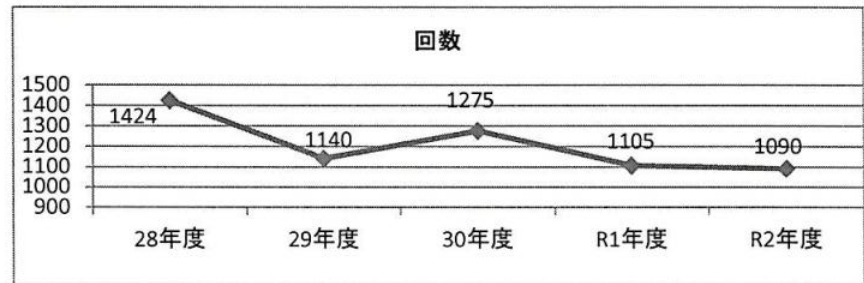
(2) のべ利用数

233名（前年度198名）

(3) 電話訪問回数

訪問 1,090回（前年度 1,105回）

（うち不在等再度訪問 100回、関係機関連絡調整回数 5回）



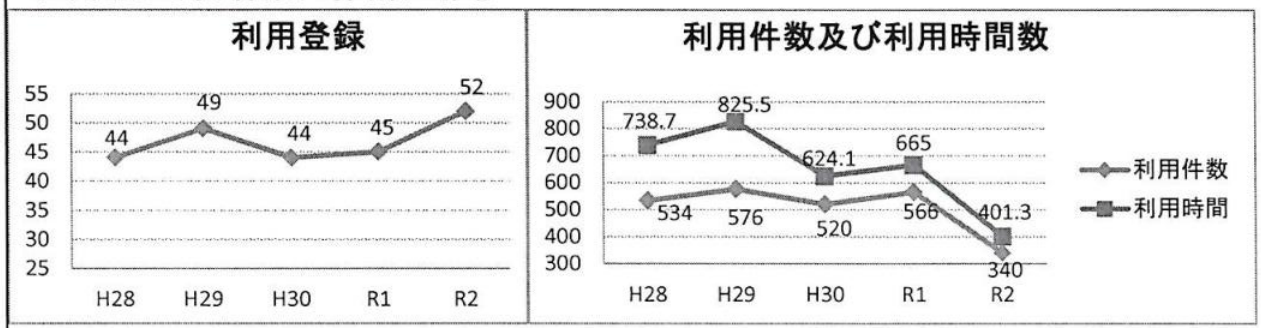
ふれんどサービス事業

高齢者世帯等で、生活保持に支障のある方（利用会員）に対し、協力会員が有償でサービスを提供する。

(1) 登録者数

- 利用会員 ①登録数 年度当初:45名 年度末:52名 ②実働数:のべ148名
- 協力会員 ①登録数 年度当初:28名 年度末:26名 ②実働数:のべ108名

(2) 利用登録、件数、時間数の推移



厚生援護

(1)緊急援護

応急的に支援が必要な方に対し、援護を行う。

① 法外援護	4件	1,300円	(前年度 2件	800円)
② 火災見舞金	2件	20,000円	(前年度 1件	10,000円)
③ 水道光熱費の緊急支出	0件	0円	(前年度 1件	45,056円)
④ 応急生活支援金	4件	57,754円	(前年度 0件	0円)
⑤ 食糧支援事業(R2.7.14まで)	18件		(前年度 65件	36,118円)

(2)養護児童の自立支援金

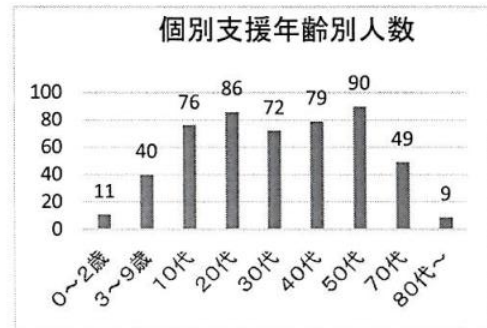
高校卒業等により児童養護施設を退所する児童に対し、自立生活の支援を行うため、支援金を交付する。

- ① 交付対象 ベトレーム学園:3名 子供の家:5名
- ② 交付額 1名につき1万円

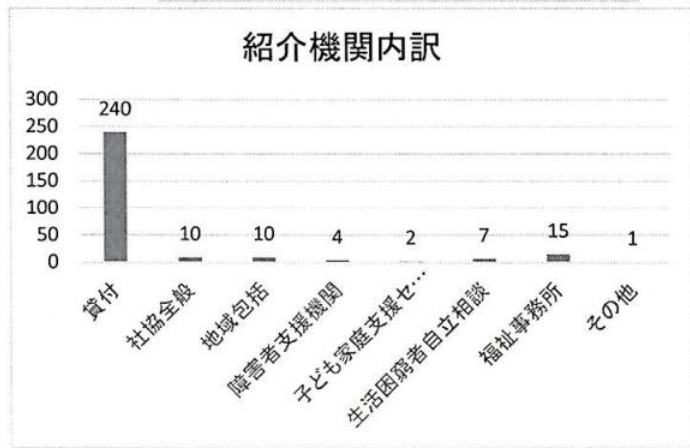
(3)フードバンクきよせ事業

新型コロナウイルス感染症の影響等により、食の支援が必要な方に対して、食料や日用品等の支援を行う。清瀬市、ボランティアの協力を得て、令和2年7月15日より事業開始。

寄付	受付数	個人	201
		企業・団体等	38
		その他	18
	受付量	食品(kg)	1350.01
		日用品(kg)	225.49
		合計(kg)	1471.9



支援	個別支援	支援世帯	304	
		世帯人員	551	
	団体支援	支援団体数	45	
		内訳	子ども食堂	26
			困窮支援団体等	2
			福祉施設等	16
			その他	1
	配布会	実施回数	2	
		配布数	51	



交通安全杖の頒布

高齢者の日常生活の安全を図るため、安価(600円)で杖を頒布。敬老大会での頒布を中心に行っていたが、現在は地域開催になったため窓口で受け付け。

(1)頒布実績

- 年間頒布本数 2本 (前年度 2本)

被災地・避難世帯支援

東日本大震災の被災者支援活動を行う

(1)東日本大震災被災者追悼キャンドルin清瀬(実行委員会による実施)

追悼キャンドルの灯りを市民とともに灯し追悼を行う。

- ①日時 3月11日(木)17時～18時30分
- ②募金 180,000円(石巻市社会福祉協議会へ寄付)

(2)北北ブロック社協避難者支援連絡会

東日本大震災後の都内避難者支援に関わる社協の連絡会

- ①7月15日(書面) ②2月2日(オンライン)

車椅子貸出事業

一時的に車椅子を必要とする方に貸し出す。

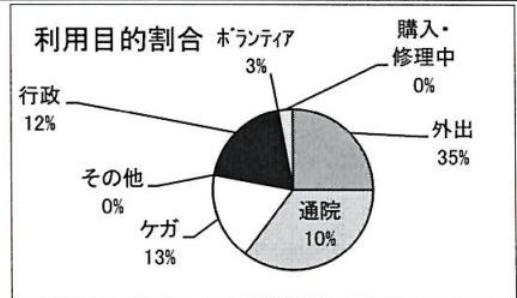
(事情により最大3ヶ月まで貸し出しを行う)

- 社協会員 1ヶ月まで無料
- 非会員 1ヶ月500円
- 配送手数料片道300円 往復500円

(1)貸出実績

所有台数 64台(令和3年3月31日時点)

個人貸出	貸出	配達回収	利用料金
社協会員	30件	6件	12,000円
非会員	37件	7件	19,300円
合計	67件	13件	31,300円



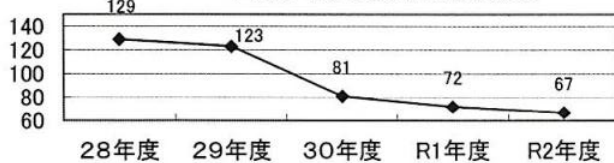
※公共施設への貸出

- 松山地域市民センター
- 竹丘地域市民センター
- 中里地域市民センター
- 下宿地域市民センター
- 消費生活センター
- 生涯学習センター
- 児童センター
- シルバーピア中清戸
- 野塩地域市民センター
- コミュニティプラザひまわり

※事業への協力

- ボランティア事業
- 他
- 選挙管理委員会 0件
- 0件

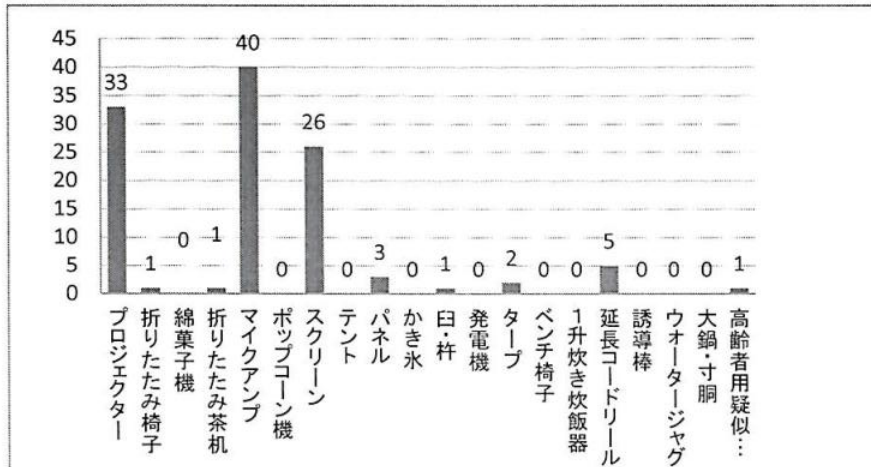
車椅子個人貸出件数の推移



地域活動のための備品貸し出し

地域で学びあったり、集いあったりする機会づくりを支援するために、活動に使用する備品を貸し出しするもの。(会員加入が前提)

(1)貸し出し実績



(2)その他の貸し出し品

- DVDビデオデッキ
- ビデオカメラ
- ICレコーダー
- 拡声器
- 災害避難用おんぶ紐
- コーヒーメーカー
- ポッチャ
- わなげ
- 台車

3. 第1層生活支援コーディネーター業務

第1層生活支援コーディネーター事業	3 第1層生活支援コーディネーター業務
<p>地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネーター機能を果たしていく事業。（清瀬市受託事業）</p> <p>(1)生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体の運営 生活支援、介護予防サービス体制整備に向けて、多様なサービス提供主体からなる協議体に参画し、定期的な情報共有、連携強化を図り協働によるささえあいの取り組みの推進を目指す。</p> <p>①第1層協議体 10月19日（書面） 11月5日 2月25日（書面）</p> <p>《協議事項》第2層協議体・地域団体等の取組共有、社会資源一覧表、地域課題共有 等</p> <p>(2)研修・会議等</p> <p>①東京都生活支援体制整備事業担当者連絡会 9月8日 ②清瀬市地域包括支援センター運営協議会 5月25日 10月20日 2月16日 ③生活支援コーディネーター研究会議 11月11日 12月8日 ④清瀬市栄養士会連絡会 6月25日 ⑤東京ホームタウン共創力アッププログラム 公開講座 7月28日 8月28日 ⑥東京ホームタウン共創力アッププログラム 地域づくりゼミ 9月11日 9月25日 3月3日 ⑥NPO法人CRファクトリーオンライン講座 7月19日 ⑦SNS活用講座 4月30日 ⑧頼られる地域メディアの作り方講座 5月26日 ⑨食フェスタ東京2020 11月22日 ⑩共助 SDGsフォーラム 11月20日 ⑪未来の豊かなつながりのための全国アクション オンラインサロンpart4 2月22日</p> <p>(3)第2層生活支援コーディネーターの連携・協働 地域活動支援の充実のため、各地域包括支援センターに配置された第2層生活支援コーディネーターと連携を図り、活動のバックアップを行う。</p> <p>①情報共有の場の設定（生活支援CO打合せ） 15回開催 ②第2層圏域の勉強会や準備会、会議への参加</p> <ul style="list-style-type: none">・信愛圏域…11回・社協圏域…10回・清雅圏域…9回 <p>(4)地域活動マッチングイベント 高齢者の社会参加機会をつくるため、第2層生活支援コーディネーターやボランティア・市民活動センターと連携して企画、実施。令和2年度は中止。</p> <p>(5)知識が広がるプロジェクト 生活支援団体、ケアマネージャー、生活支援コーディネーターの連携によるプロジェクト。</p> <p>○ケアマネージャーを対象としたアンケートの実施 :回答数55名(回収率67.9%)</p>	

(6)10の筋トレ事業

支え合い活動推進支援事業として、リハビリ連絡会や第2層生活支援コーディネーター、介護予防推進センターと連携して実施。

- 説明会・体験会の実施 : 2回
- 出前講座の実施 : 3回
- スタッフミーティングの実施
- 自主グループへの支援 : 「通いの場再開にあたって市内の感染症拡大を防ぐために」の作成配布
- 新たな自主グループの立ち上げ:3団体

(7)きよせあったかマスク☆プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響により、外出の機会が減少した高齢者が自宅でできる活動の創出のために、生活支援コーディネーターとボランティア・市民活動センターで企画、実施。

- 担い手 約150人(小学生から80歳代まで)
- 作成・配布枚数 約5,300枚
- 布マスク・材料・資金の寄付協力 :個人、社会福祉施設等
- プロジェクト終了後の担い手へのアンケート調査:対象者 97名(64名より回答)

4. 助成事業

4
助成事業

ご近所福祉活動応援助成

地区福祉員と社協会員が行う小地域単位での支えあい活動を支援し、社協会費を地域福祉の向上に活かす。

○ 申請 1団体 ①茶どころだんだん 12,500円 中清戸・下清戸地区のサロン活動

地域福祉活動応援助成

支えあい活動を推進するために、歳末たすけあい募金を原資に助成を行う。申請のあった事業に対し、共同募金会配分推せん委員会で審査のうえ、助成決定する。

(1)助成概要

○ 申請 6団体 393,000円

○ 交付決定 6団体 380,000円 ※前年度 18団体 769,000円

○ 最終助成金額 4団体 159,260円 (辞退 2団体)

※辞退理由は新型コロナウイルス感染症に伴う事業中止によるもの

団体名	金額	助成内容
清瀬市呼吸器障害者の会	25,000	会報発送費
旭が丘みんなのサロン	14,260	会場使用料
子どもの居場所支援者養成講座実行委員会	100,000	子どもの居場所に関わるボランティアを養成するための講座
チームりかすて	20,000	手指消毒薬、インク代、事務消耗品、行事保険料 他
合計 (4 団体)	159,260	

介護予防活動団体育成事業

介護予防活動団体の活動を円滑に進めるため、相談支援と補助金交付を行う。
(清瀬市受託事業) 申請9団体：決定9団体

団体名	金額	申請内容
日曜楽々会	22,494	会場使用料等
きよとれ学校 竹丘校	13,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
きよとれ学校 野塩校	8,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
きよとれ学校 梅園校	25,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品等
10の筋トレ 竹丘中央	10,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
10の筋トレ コスモザパークス清瀬の森	19,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
10の筋トレ たけおか健友会	13,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
10の筋トレ 緑蔭クラブ	10,000	介護予防の場づくりにかかわる備品整備、消耗品
10の筋トレ 梅園にこここ倶楽部	25,000	介護予防の場づくりにかかわる消耗品、保険料等
合計(9団体)	145,494	

助成事業の推せん(利用支援)

(1) 助成金情報の地域への提供と助言

地域団体の活動を円滑に進めるため、財団等が行う助成情報の周知を行う。

- ① ボランティア・市民活動センターホームページの専用コーナーによる情報提供を行う。
- ② 自治会、団体向けの連絡会等において助成金制度の仕組み等の情報提供する。
- ③ 該当すると考えられる地域団体に個別に情報提供を行う。

(2) 赤い羽根共同募金地域配分(B配分)の申請に伴う推せん

公費財源での整備が困難な、児童福祉施設、障害者(児)福祉施設を対象に、小規模修繕や備品整備などに充てる経費を配分すいせん委員会の審査により推薦する。

申請: 7団体 1,350,000円 推せん決定: 5団体 500,000円 (配分上限額500,000円)

団体	金額	助成内容
放課後等デイサービスAAO!	130,000	リモート支援備品整備
清瀬作業所	90,000	宿泊訓練事業
グループホームどんぐりハイツ	20,000	電動アシスト自転車
ひだまりの里きよせ	130,000	廊下壁補修防護マット貼工事
セルフ清瀬	130,000	就労支援作業用備品整備
合計	500,000	

(3) 赤い羽根共同募金整備費・特別事業費配分(A配分)の申請に伴う意見書作成

施設整備や特別事業費などを対象とした全都配分申請について、配分すいせん委員会の意見書を作成。意見書作成: 0件

(4) その他地域団体の助成申請に伴う推薦

① 助成金

地域団体の活動を円滑に進めるため、財団等が募集する助成事業に申請する際に推薦書を作成。推薦書作成: 4件 (うち決定3件)

申請団体	助成元	助成経費内容
ロートリークラブあけぼの	オリックス宮内財団	食費、設備整備費等
ぽかぽか食堂&グリーンタウン	オリックス宮内財団	食費、設備整備費等
おひさまネットワーク	オリックス宮内財団	食費、設備整備費等
NPO法人ウィズアイ	オリックス宮内財団	食費、設備整備費等

5. 生活福祉資金貸付事業

貸付状況

所得の少ない世帯や障害者・高齢者のいる世帯に対し、必要な資金の貸付を行うことにより、世帯の生活の安定と経済的自立を図る（東京都社会福祉協議会受託事業）

(1)貸付内容等の動向①

① 相談件数

	新規受付	貸付相談	償還相談	合計
平成30年度	89	345	117	551
令和元年度	107	284	95	486
令和2年度	1613	5696	319	7628
前年比	1507%	2006%	336%	1384%

※特例含む
※特例含む

② 新規貸付件数（特例除く）

	福祉費	緊急小口	教育支援	総合支援	不動産	ひとり親	合計
平成30年度	0	3	5	0	1	1	10
令和元年度	0	2	3	0	0	1	6
令和2年度	0	2	7	0	0	2	11
前年比	-	100%	233%	-	-	200%	183%

③ 新規申込件数（特例）

- ・令和2年7月豪雨災害により被災した世帯に対する生活福祉資金

実施期間 令和2年8月11日～ 受付件数 0件

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少・途絶した世帯に対する生活福祉資金

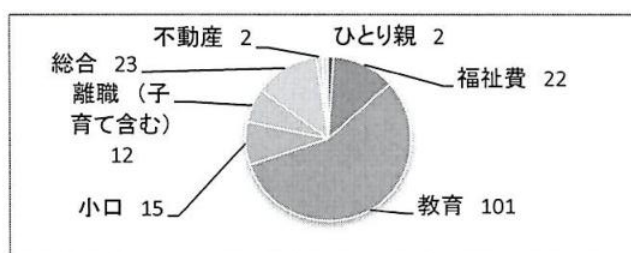
実施期間 令和2年3月25日～ ※令和3年6月末までの予定

	相談 受付 件数	申込・貸付状況						
		申込 総数	緊急小口資金		総合支援資金		総合支援資金(再貸付)	
			申込件数	申込件数	決定件数	延長申込件数	申込件数	決定件数
令和元年度	30	3	3	0	0	0	0	0
令和2年度	1588	1578	675	460	396	252	191	100

④ 年度末債権総数

	件数
平成30年度	184
令和元年度	183
令和2年度	175
前年比	95%

※特例除く



⑤ 年度末償還状況

※当年度償還期限内のもの。償還期限後、過年度のものは除く。

	償還率
令和元年度	69.90%
令和2年度	73.70%

(2)担当者会議・研修

- ①生活福祉資金担当 グループ懇談会 12月10日

(3)他機関連携

- ①生活困窮者自立相談支援機関支援調整会議 8回

6. ボランティア・市民活動センター事業

6
ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
・
市
民
活
動
セ
ン
タ
ー
事
業

運営・会議参加等

(1) きよせボランティア・市民活動センター運営委員会

地域住民及び関係機関から選出された委員によりボランティア・市民活動センター事業の実施計画、課題、運営について等を審議、検討する。第1回・第2回は感染拡大防止の観点から中止した。

日程	内 容
①11月30日	事業報告、事業動向、オンラインを用いた活動支援 他
④ 3月1日	事業計画 事業動向、コロナ禍におけるコーディネートの困難性 他

(2) 連絡会への参加

- 市区町村ボランティア・市民活動推進事務局連絡会 7月31日 10月16日
- 市区町村ボランティア・市民活動センター長会議 6月18日 9月11日
- 北多摩北部ブロックボランティアセンター担当者連絡会 7月9日 10月9日 3月18日
- 令和元年台風15号・19号災害ボランティア連絡会 7月16日
- 当事者に学ぶ視覚・聴覚障害者セルフアドボカシーのための連携協議会 6月30日

(3) 研修会への参加

- ビジネス基礎講座(SNSを活用して支援者を集めよう) 7月3日
- オンラインだからこその話す力入門講座 10月17日
- 企業と災害ボランティアはどう連携できるか 1月26日
- 新型コロナ感染拡大防止下における被災者支援勉強会 11月25日
- SNSでもコミュニケーションのプロになろう 2月4日

(4) 自衛消防訓練

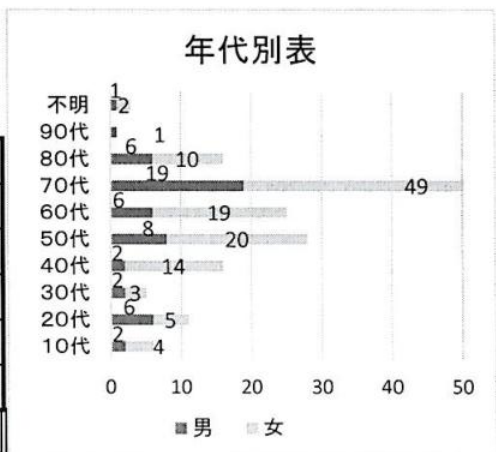
- 《第1回》 3月9日 消火器、応急水栓使用法訓練
- 《第2回》 3月31日 消火・避難誘導模擬訓練

センター利用状況

(1) 登録ボランティア

- ① 個人ボランティア登録数 179名(前年159名)
(うち新規登録) 24名(前年42名) 男6名 女18名

年代	男	女	計	年代	男	女	計
10代	2	4	6	60代	6	19	25
20代	6	5	11	70代	19	49	68
30代	2	3	5	80代	6	10	16
40代	2	14	16	90代	1	0	1
50代	8	20	28	不明	1	2	3
※平均約62歳				合計	53	126	179



- ② 登録ボランティア団体 72団体2,302名 (昨年63団体 2,223名)